

全国町並み保存連盟と

全国町並みゼミ

(昭和49年)に「今井町を保存する会」(奈良県)、「妻籠を愛する会」(長野県)、「有松まちづくりの会」(愛知県)という3つの住民組織によってスタートした団体です。「町並みはみんなのもの」を合言葉に、「郷土の町並み保存と、より良い生活环境づくり」をめざして活動を続け、2003年(平成15年)に特定非営利活動法人に認証、現在、団体会員は67、個人会員170人が参加しています。

活動の大柱である「全国町並みゼミ」は加盟団体の持ち回りで、1978年(昭和53年)に第1回を開催して以来、途切れることなく、今回の川越大会で42回を数えます。町並みに思いを寄せた住民や専門家などが全国から集い、各地の住民団体が受け入れ元となり、自治体等と協働しながら、それぞれの町の抱える課題を題材に、全国の事例を交えながら解決策を模索する大会となっています。

2003年(平成15年)に特定非営利活動法人に認証、現在、団体会員は67、個人会員170人が参加しています。活動の大柱である「全国町並みゼミ」は加盟団体の持ち回りで、1978年(昭和53年)に第1回を開催して以来、途切れることなく、今回の川越大会で42回を数えます。町並みに思いを寄せた住民や専門家などが全国から集い、各地の住民団体が受け入れ元となり、自治体等と協働しながら、それぞれの町の抱える課題を題材に、全国の事例を交えながら解決策を模索する大会となっています。

一度目の川越大会その意義

平成5年、第16回全国町並みゼミ川越大会が開催された。当時は、一番街の電線が地中化された直後である。一方、伝統的建造物群保存地区指定に向けて、まちと行政が少しばかり陥悪な状態となっていた。このようなかで、行政をはじめまちに関わる様々な団体や市民が一丸となり、歴史を活かしたまちづくりへ向けて新たなスタートを切った大会であった。

平成11年の重要伝統的建造物群保存地区選定以降、町並み整備が進んだ反面、町の様相は大きく変化した。観光客は増大し、空き店舗の活用が進むものの古くからの個人商店は減少し、川越らしさは失われつつある。この間国の制度も、景観法や通称歴史まちづくり法の制定、登録有形文化財や文化的景観などの文化財保護制度の拡大など、充実してきた。

川越でも、歴みち事業や景観条例による建物保存、旧鏡山酒造(小戸蔵里)や旧川越織物市場の保存活用、そして、通称歴史まちづくり計画の認定などの整備は進んでいる。一方、クレアモールの完成や中央通り線の拡幅、ウエスタ川越をはじめとする川越駅西口の整備など、現代の顔づくりも進む。

一見、伝統と現代がうまく発展してきたように見受けられる。しかし、新たな課題もあれば、積み残されているものも多い。来訪者が増えたことにより観光の目的と質は変化し、人と車が交錯する交通問題は深化した。伝統技術の継承は深刻だ。所有者側の課題による伝統的建造物の除却も進む。これらに加え、人口減少高齢化により、町並みの継承そのものが危ぶまれる状況にある。

今回、住民や行政、来訪者など地域全体でより良い関係を築きながら次代へ継承できる歴史都市のあり方を、全国の仲間と探りたい。

(開催趣意書より抜粋)

イベント・オプショナルツアー

お問い合わせ先

NPO法人全国町並み保存連盟
TEL: 03-(6240)0321
E-mail: matinami@pop02.odn.ne.jp

第42回全国町並みゼミ川越大会 イベント in 谷中

谷中のように伝建や歴まちなどの制度がなく、行政の理解がなかなか得られない地域で、これから歴史まちづくりのあり方を議論する。

日時: 1月30日(木) 15時~19時30分
場所: 東京文化財研究所セミナー室(地下1階)
参加費: 1000円※事前申し込み、当日受付

オプショナルツアー 2月2日(日)

・和装文化の足元を支え続ける 定員40名

足袋蔵のまち行田 まち歩き

足袋生産で全国の8割を占めていた行田、足袋蔵を活用した町おこしが始まっています。

集合場所: 足袋蔵まちづくりミュージアム

(行田市行田5-15)
集合時間: 10時10分 解散: 12時
参加費: 1000円 交通費・食事代別途

案内人: NPO法人ぎよつだ足袋蔵ネットワーク

・和紙のふるさと小川町探訪 定員40名

小川町は、ユネスコ無形文化遺産細川紙の里です。歴史的資産を活かす活動が始まりました。

集合場所: 小川町駅前(東武東上線・JR八高線)
集合時間: 10時 解散: 12時
参加費: 1000円 交通費・食事代別途

案内人: NPO法人小川町創り文化プロジェクト



第42回全国町並みゼミ川越大会

歴史都市のこれから

過去に学び、今を見つめ、未来を想い、共に歩もう

令和2年2月1日(土)

令和2年1月31日(金)

・まち歩きと分科会(第一~第六)

・懇親交流会

第二日目

川越都市景観シンポジウム

基調講演 《会場: ウエスタ川越1階多目的ホール》

講師: 陣内秀信先生

「歴史都市を活かしたまちづくり」

「イタリアとの比較とこれからの日本・川越」

参加申込み受付

12月2日(月)~12月27日(金)

※申込み方法や詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.kuranokai.org/42machizemi/>

参加費

(※弁当代、懇親交流会費等は別途)

一般: 5,000円 会員: 4,000円 学生: 3,000円
川越都市景観シンポジウム等2月1日のみ参加の場合
川越市民は入場無料

お問い合わせ先

第42回全国町並みゼミ川越大会について

第42回全国町並みゼミ川越大会実行委員会事務局 (NPO法人川越蔵の会)

Eメール: machizemi@kuranokai.org FAX: 049-222-2330

川越都市景観シンポジウムについて

川越市都市計画部都市景観課 都市景観担当

電話: 049-224-5961(直通)

第42回全国町並みゼミ川越大会 + 川越都市景観シンポジウム

歴史都市のこれから ～過去に学び、今を見つめ、未来を想い、共に歩む～

講演者 隈内 秀信 先生



「歴史都市を活かしたまちづくり」

これからの日本・川越」

陣内秀信（じんないひでのぶ）先生
1947年、福岡県生まれ。東京大学大学院
工学系研究科博士課程修了。ヴェネツィア建築
大学、ユネスコのローマ・センターに留学。法
政大学工学部建築学科教授、デザイン工学部
教員を経て、現在、同大江戸東京研究センター
特任教授。専門は建築史・都市史。ローマ大
学名誉学士、アルフィイ名誉市民。イタリアを
中心とする地中海世界、東京の都市研究を行
う。サントリー学芸賞を受賞した『東京の空
間人類学』（筑摩書房）の他、著作多数。

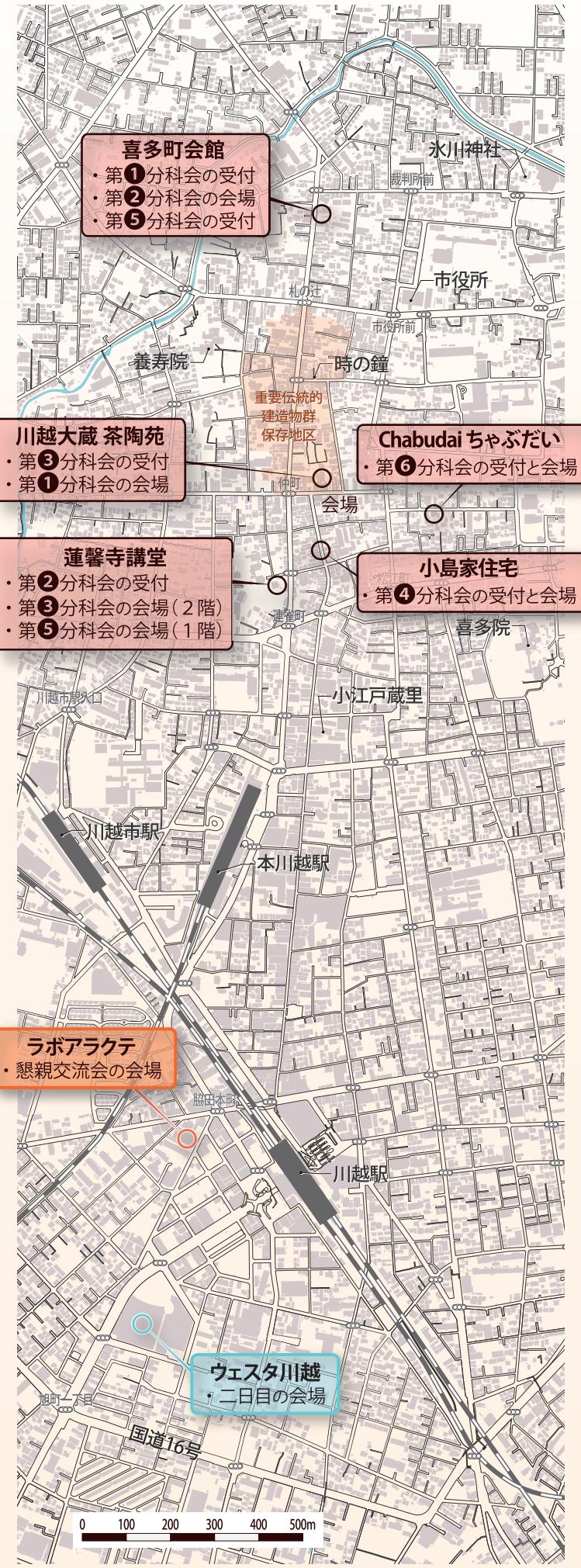
- ・ 分科会報告
- ・ 岩山賞贈呈式
- ・ 大会旗継承
- ・ 閉会式（～15時30分頃終了予定）

第2日目・開会式＆基調講演
2月1日土 川越都市景観シンポジウム

《会場》ウェスタ川越 1階多目的ホール
(新宿町1-1-17)

- ・ 全体会 12時15分～《同会場》
- ・ 各地からの報告

《会場》ラボアラクテ
(エヌベー川越 1階多目的ホール)



前日1月30日(木)・翌2月2日(日)も
関連イベントがあります。
詳細は、裏面やホームページをご覧ください。

第1分科会〔定員130名〕

《受付》喜多町会館 (喜多町4-4)

《会場》川越大藏茶陶苑 (仲町2-6)

○テーマ『歴史的都市環境(Historic Urban Landscape=HUL)をどう守るか?』

○歴史的な町並みを維持発展させていくための法制度は如何に？

○コーディネーター・大倉宏（理事、新潟まち遺産の会会長）

○概要・川越では、「伝建」等の制度の活用により、歴史的都市環境の整備が進みました。しかし、多くの問題や課題も抱えています。本分科会では法制度を考えつつ、HULの保全継承策を議論します。

第2分科会〔定員50名〕

《受付》蓮馨寺講堂 (連雀町7-1) 《会場》喜多町会館 (喜多町4-4)

○テーマ『町並みはみんなでつくる！』

○良好な町並みを誘導する住民主体のシステムを考える

○コーディネーター・西村幸夫（常任理事、神戸芸術工科大学教授）

○概要・住民が主体的に関わるまちづくりが強く求められています。そのための地域コミュニティの形成手法、行政との協働や役割分担の在り方、景観整備の誘導手法等について議論します。

第3分科会〔定員50名〕

《受付》川越大藏茶陶苑 (仲町2-6) 《会場》蓮馨寺講堂2階 (連雀町7-1)

○テーマ『景観まちづくりがもたらしたもの』

○住民と来訪者の良好なあり方とは？

○コーディネーター・中村泰典（常任理事、(特非)倉敷町家トラスト代表理事）

○概要・歴史的建造物や町並みの整備は、多くの来訪者を呼びこみ、経済効果がある一方、そこに住まう人々に様々な影響ももたらします。観光地で商うこと、そこに住まうことの課題について議論します。

第4分科会〔定員50名〕

《受付&会場》小島家住宅 (連雀町13-4)

○テーマ『伝統的な技と心の継承・育成』

○歴史的な町並みや建物を次世代に引き継いでいくために

○コーディネーター・斎藤行雄（副理事長、(一社)白杵のんき屋）

○概要・歴史的建造物や町並みを残す意義を確認し、地域固有の生活文化を次世代に継承していくために何をすべきか。また、職人の技術を継承していくために必要なことは、などについて議論します。

第5分科会〔定員70名〕

《受付》喜多町会館 (喜多町4-4)

○テーマ『歴史的建造物の活用と地域社会の関わり』

○リノベーションの展開をいかに地域価値の向上につなげるか

○コーディネーター・佐久間康富（和歌山大学准教授）

○概要・建物を活用しようとしている人たちと地域の自治組織やまちづくりに取り組んでいる人たちなどの関係に焦点をあて、地域社会のつながり方・つなぎ方、地域展開への工夫などについて議論します。

第6分科会〔定員20名〕

《受付&会場》Chabudai ちゃぶだい (三久保町1-14)

○テーマ『地域物件の個性を活かす編集力とエリアマネジメント実践』

○ワークショップ※気になる空き家の写真(A4)をご持参ください。

○コーディネーター・國廣純子（青梅市タウンマネージャー）

○概要・歴史的価値は伝統的建造物には至らないけれど個性的な物件や、魅力の乏しい普通の物件も含め、面的にエリア再生する実務ノウハウを、川越まちあるき十座学+ワークショップを通じて学びます。

第1日目・受付 12時30分～13時00分 《分科会ごとの集合場所に》
1月31日金・まち歩き 13時00分～14時30分 《分科会ごとのルートで》・懇親交流会 18時30分～20時30分 《会場…ラボアラクテ》

第4分科会〔定員50名〕
《受付&会場》小島家住宅 (連雀町13-4)
《会場》ラボアラクテ (脇田本町22-5)